

6. 社会学・社会問題関係

復刻版

英文・巖本嘉志子

訳師岡愛子

訳文・巖本嘉志子
全2冊

ISBN 978-4-8447-0355-6

四六判・総440頁

本体価5,000円

巖本善治編、英文遺稿集『巖本嘉志子』は、これまで遺族以外ごく限られた所有者があるばかりの“幻”の若松賤子（本名、巖本嘉志子）の英文集だった。

歳月は移り、巣鴨庚申塚の明治女学校跡に「明治女学校記念碑」建立の機運が生まれ、日本女子大学教授岡愛子氏の日本語訳別冊とともに明治女学校記念碑建立・除幕を記念として発行。

(81・10 刊)

残僅少

東京府社会事業協会 刊／解説 吉田久一

復刻版

社会福利
全47巻〔解説・総目次・索引付〕

A5判

本体価480,000円

『社会福利』は、東京府慈善協会の会報『東京府慈善協会会報』として、大正6年4月に創刊された。その後、『東京府慈善協会(会)報』、『東京府社会事業協会報』、『社会福利』、『厚生事業』と改称され、昭和19年6月までの発行が確認されている。

本誌は、戦前の東京の社会事業の実態を知るにあたって欠かすことのできない貴重な資料である。また、大正デモクラシー・マルキシズム・キリスト教・仏教・報徳思想等の当時の社会思想を背景に、

生江孝之、海野幸徳、川上寛一、牧賢一、谷川貞夫、大林嗣、磯村英一等多くの社会事業家や学者により、社会的事業論や方法論が論じられている。本誌は大阪の『社会事業研究』（昭和19年廃刊）、中央の『社会事業』（現在、『月刊福祉』と改題）と並ぶかつての社会事業論壇の拠点的存在であった。

(82・3 初版)

'85-10 2版

残僅少

刊行内容

配本	原本巻号	原本発行年月	冊数	分冊本体価	ISBN
1	第1号～第43号	大正 6年 4月～昭和 3年12月	10	90,000円	978-4-8447-5325-4
2	第13巻1号～第15巻12号	昭和 4年 1月～昭和 6年12月	9	90,000円	978-4-8447-5326-1
3	第16巻1号～第18巻10号	昭和 7年 1月～昭和 9年12月	9	90,000円	978-4-8447-5327-8
4	第19巻1号～第21巻12号	昭和10年 1月～昭和12年12月	9	90,000円	978-4-8447-5328-5
5	第22巻1号～第27巻11号	昭和13年 1月～昭和18年12月	10	120,000円	978-4-8447-5329-2

龍溪書舎編集部 編

『社会福利』
解説・総目次・索引

ISBN 978-4-8447-0436-2

A5判・130頁

本体価3,000円

雑誌『社会福利』（大正6年4月～昭和19年6月）全225冊について解説・総目次・著者名索引を記載した。

(84・8 刊)

編集 堺 利彦
すいせん 氏家寿子、近藤真柄、外崎光広、
横山光子

復刻版

家庭雑誌 全5巻

(明治36年4月~40年8月)

付録 簡易生活 (全6冊)
別冊 『家庭雑誌』解題 大木素子
総目録・執筆者索引

ISBN 978-4-8447-0354-9
A5判・総2,100頁

本体価55,000円

本誌は中流社会の家庭を対象として、啓蒙的に家庭生活の近代化をはかろうとするものであり、社会主義的色彩をもった家庭向け雑誌として、日本近代史上独自の役割を果たした。安部磯雄、荒畑寒村、石川三四郎、木下尚江、上司小剣、西川光次郎、白柳秀湖等が執筆している。

なお、『簡易生活』(明治39・11~40・5)全6冊も含む。上司延貴(小剣)編集。虚像虚飾を一掃し、日常の生活を簡易にし、共同と平等を尊重し、しかも趣味と快楽を失わぬように心がけた、着実に穏健な生活改良誌。

幸徳秋水、堺利彦、大杉栄、白柳秀湖、正宗白鳥が多く寄稿して、社会主義者と自然主義文学者との交流の場としても意義があった。(82・3刊)

残僅少

編集・解題 川合隆男

復刻版

明治期社会学関係資料 全10巻

●収録資料

社会雑誌〔社会学会〕明治30年4月~31年8月
社会学〔社会学研究会〕明治32年1月~34年12月
社会学雑誌〔社会学研究会〕明治35年2月~36年4月

●本誌の主な執筆者 (50音順)

元良勇次郎/松村介石/久松義典/樋口秀雄
/布川孫市/十時 彌/坪井正五郎/田島錦治
/高野房太郎/高木正義/島田三郎/佐久間貞一
/呉 文聡/窪田静太郎/加藤弘之/片山 潜
/小河滋次郎/岡 百世/浮田和民/石川千代松
/有賀長雄

ISBN 978-4-8447-3346-1
A5判・総5,400頁

本体価200,000円

本企画では『社会雑誌』、『社会』、『社会学雑誌』の3雑誌を一連のものとしてとらえ、一括収録した。これらは、日清・日露戦争の戦間期において約6年余にわたって続けられた「社会学会」、「社会学研究会」による社会学、社会問題、社会運動をめぐる近代日本の学問運動の貴重な足跡である。

帝国主義、国家主義の轍に迷い踏み入らんとする前夜の状況にある戦間期の激動の渦のなかで、まさに悲観苦闘しながら足早に刻み込まれたこの足跡は、これまでは顧みられることが少なかった。この3誌は、明治20年代から30年代にかけての近代日本での新しい社会問題の出現を眼前にして、幅広い問題関心と思想傾向や系譜を内包させつつ刊行された。学問運動の草創期だけにその組織的基盤は弱かったとはいえ、さまざまな多少とも異質の学問傾向や思想傾向を共有する可能性や活力を内包していた。学問活動がますます国際的な広がりを示しつつある今日であるが故に、近代日本のこうした草創期の足跡を再掘し再考察していくことが同時に重要であると言える。(91・12刊)

残僅少

日本社会学院(代表 建部遯吾) 編
解題 内山秀夫、川合隆男

復刻版

現代社会問題研究 全25巻

(大正9年11月~昭和2年11月)

ISBN 978-4-8447-3366-9
A5判・総約8,300頁

本体価375,000円

明治30年代から日本の資本主義は確立期に入る。大正デモクラシーとも重なり合うこの時期は、近代日本において、社会が前面に、そして国家が背景に退く状況であった。この歴史過程にあって、国家の側に立ちつくす社会学者、建部遯吾がいた。

大正2年に日本社会学院を設立し、社会学界を組織化した彼は「国体社会学」者として、社会本位主義を標榜し、大正デモクラシーに対抗した。つまり国体社会学が大正期社会学の主流であったのである。

本資料は基本的には、建部の日本社会学院が総力をあけて、「現代社会の骨がらみの社会病」に取組んだ作業で、大正9年11月から、昭和2年11月にいたる正に7年間の大事業であった。当時の社会学を代表する人々が顔を揃える。そこには社会問題が国家的大問題である事態がみえる。反動的に、大正デモクラシー期を別決する基本資料でもある。(93・5刊)

収録内容

巻	題目	本論	序論跋論	巻	題目	本論	序論跋論
1	現代社会文明	建部 遯 吾		14	国民保健問題	高 田 三 章	戸田正三
2	貧 窮	今井政吉	窪田静太郎	15	人種問題	赤神良讓	三 瀨 信 三
3	労働者問題	平野長次郎	桑田熊蔵	16	植民問題	綾川武治	稲田周之助
4	現代都市の問題	小川市太郎	佐野利器	17	平和問題	山内雄太郎	建部 遯 吾
5	農村問題	小河原忠三郎	山崎延吉	18	国防上の社会問題	佐藤綱次郎	宇都宮 鼎
6	食糧問題	建部 遯 吾		19	政治改革	建部 遯 吾	
7	私有財産問題	戸田貞三	建部 遯 吾	20	階級問題	松本潤一郎	米田庄太郎
8	本邦社会事業	杵淵義房	小河滋次郎	21	家族制問題	田崎仁義	穂 積 重 遠
9	犯罪問題	阿部眞之助	松井茂	22	宗教問題	建部 遯 吾	椎尾辨匡
10	革命及宣傳	今井時郎	近衛文磨	23	思想問題	深作安文	藤井健次郎
11	風俗問題	鷲尾 浩	建部 遯 吾	24	國家社会觀	建部 遯 吾	言 苗 賢 聖
12	婦人問題	小林照朗	米田庄太郎	25	「解題」 現代社会總索引	内 田 隆 秀	紙本治一郎
13	人口問題	大場寶治	亀田豊治朗				

日本社会学院事務所 発行／解題 川合隆男

復刻版

日本社会学院年報

第1年～第10年（大正3～12年）・社会学研究
第1巻1号～第2巻1号（大正14年4月～昭和2
年3月） 全11巻

ISBN 978-4-8447-3484-0

A5判・総7,200頁

本体価385,000円

「日本社会学院」は、明治期の「社会学会」「社会学研究会」などの学会組織や活動のあとに、東京帝大教授建部遯吾を中心に全国的な学会組織として1913（大正2）年5月に設立された。

その機関雑誌が、『日本社会学院年報』（編修・建部遯吾、米田庄太郎）と『社会学研究』（編修・赤神良讓など）であった。大正デモクラシーが主張されていく時代にあつて、「個人本位観」と「社会渾一体観」とが渦巻く歴史状況や社会学界の動きを知る貴重な資料である。（99・10刊）

編集 川合隆男

近代日本社会学関係雑誌記事目録
附・執筆者別索引

執筆者約2,200名／収録記事数約18,000
収録雑誌32誌（明治7年～昭和25年）

ISBN 978-4-8447-8452-4

B5判・680頁

本体価50,000円

本書は『明六雑誌』（1874～75年）から、戦後日本社会学が再出発し『社会学評論』が新たに刊行（1950年7月）される以前までの、32点の主な社会学関係雑誌の記事目録を収録したものである。

明治初年以降の数多くの社会学関係雑誌記事目録を個別の雑誌の個々の記事目録にとどめず、同一の書誌に編纂した点で画期的である。

本書には近代日本が歩み出す中で、人間学、交際学、世態学、社会学等が渦巻き、学問運動としての社会学、社会学界、社会学会の草創、形成、変転する様が刻み込まれている。（97・4刊）

収録雑誌名一覧

『明六雑誌』	『季刊社会学』（日本社会学会）	『社会学研究』（東京社会学研究会）
『社会雑誌』	『（年報）社会学』（日本社会学会）	『季刊社会学』（東京社会科学研究所）
『社会』	『社会学研究（年報）』（日本社会学会）	『家族と村落』
『社会学雑誌』（社会学研究会）	『社会学研究』（日本社会学会）	『社会学徒』
『丁酉倫理会講演集』	『文化社会学叢書』	『大原社会問題研究所雑誌』
『丁酉倫理会倫理講演集』	『社会学』	『月刊大原社会問題研究所雑誌』
『日本社会学院年報』	『唯物論研究』	『社会科学』
『社会学研究』（日本社会学院）	『学芸』	『社会園』
『日本社会学研究所論集』	『東京社会科学研究所年報』	『季刊社会学評論』
『社会及国体研究録』	『社会哲学社会科学評論』	『東亜社会研究』
『社会学雑誌』（日本社会学会）	『社会学評論』	

ソシアル・サーヴィ(社会踏査)
内務省衛生局 編/解題 川合隆男

復刻版

東京市京橋区
月島に於ける **実地調査報告**
全2巻

ISBN 978-4-8447-0407-2
A5判・750頁

本体価60,000円

通称「月島調査」といわれる本調査(大正10年11月刊)は「報告本文」、「附録」(別冊2冊、(1)統計表、(2)月島社会地図及写真)の3冊からなっている。内務省保険衛生調査会を調査母体として、高野岩三郎を中心に権田保之助、星野鉄男、山名義鶴、三好豊太郎らの多彩な人たちが参画し、町内に調査所をおいて長期にわたって「ソシアル・サーヴィ」を試みたユニークな総合的調査であり、近代日本史の貴重な遺産である。(02・3刊)

編集 内山秀夫、香内信子
すいせん 飯田泰三、逸見久美、高良留美子、ク
レール・ドダヌ、ジャニン・バイチマ
ン、西田 毅、松尾尊兌、松本三之介

與謝野晶子評論著作集
全22巻

ISBN 978-4-8447-3522-9
A5判・総約7,500頁

本体価220,000円

歌人・與謝野晶子は短歌以外に膨大な著作を残した。その領域は広く深く、特に社会の動きに敏感に反応した社会評論の領域は晶子独自の思想を持って、時代を写しとっていた。
本企画は自由人・與謝野晶子が生涯をかけて執筆した明治末からその死に至る36年間の評論・エッセイ750点余を既刊15冊と共に網羅的に収集・整理したものである。(03・8刊)

＝ 構 成 ＝

番号	書 名	刊行年月	番号	書 名	刊行年月
1	一隅より	明44年 7月	12	砂に書く	大14年 7月
2	雑記帳	大 4年 5月	13	光る雲	大 3年 7月
3	人及び女として	大 5年 4月	14	街頭に送る	大 6年 2月
4	我等何を求むるか	大 5年 4月	15	優勝者となれ	大 9年 2月
5	愛、理性及び勇氣	大 6年10月	16	評論・隨筆(散文) 約800点	
6	若き友へ	大 7年 5月	17		
7	心頭雑草	大 8年 1月	18		
8	激動の中を行く	大 8年 8月	19		
9	女人創造	大 9年 5月	20		
10	人間禮拜	大10年 3月	21		
11	愛の創作	大12年 4月	22	解題・総目次・著作年表・索引篇	

近代日本社会学史叢書編集委員会(代表 川合隆男) 編

A5判

編集委員 川合隆男、原田勝弘、小倉康嗣、三浦直子、松尾浩一郎、吉村治正

すいせん 秋元律郎、新 睦人、内山秀夫、小松隆二、富永健一、中 久郎、中川 清、吉原直樹(50音順)

近代日本社会学史叢書

本企画は、1868(明治元)年から第2次世界大戦終戦後の占領期である1953(昭和28)年まで、約90年間の我国の広く社会学史に関する基礎資料としての著作の復刻刊行を意図している。全著作数約330冊を予定。

21世紀を迎えて現代社会の社会変動は内外ともに激動の様相を示し、ますます複合的・多面的な変化、不確実な変化が増大してきており、自然と人間との関係をも含めて、人間と国家・社会・世界との関係、人間関係のありようを軸に、近代・現代社会の歴史的転換をあらためて再考察していく作業が重要な課題として課せられているといえる。明治以降の我国の社会科学と社会学の展開も、また例外なく、そうした大きな激動のもとで繰り広げられてきたのであり、このような激動のもとにあっては、将来を見据えて歩むべき方向や確とした指針を探り出すべくこれまでの先人たちの歩みや営々として築かれてきた知的遺産を検証する作業は極めて重要である。編者らの復刻作業はそうした検証作業の一環であり、近代日本の知的遺産の批判的継承とともに、知的資源の創造的展開も重要な作業であると考えている。

第1期(草創期～生成期)全38巻 1868(明治初)年(草創期)
～1906年・明治30年代(生成期)

揃本体価874,000円

配本	巻号	書名	編著者名	刊行年
1	1	{ 百学連環 百一新論 生性発露	西 周 〃 〃	1871(明治4) 1874(明治7) 1871~73(明治4~6)
	2 3	文明論之概略(全2巻)	福沢諭吉	1875(明治8)
	4	{ 国体新論 人権新説	加藤弘之 〃	〃 〃
		フェノロサの社会学講義	E.F. Fenollosa (秋山ひさ編・解説)	1883(明治16) 1882(明治15)
	5	社会進化論 社会学、卷之一	有賀長雄	1883(明治16)
	6	宗教進化論 社会学、卷之二	〃	〃
	7	族制進化論 社会学、卷之三	〃	1884(明治17)
	8	増補 社会進化論	〃	1886(明治19)
	9	{ 民情一新 将来之日本(第5版)	福沢諭吉 徳富蘇峰(猪一郎)	1879(明治12) 1888(明治21)
	10	{ 日本之輿論 社会学史	内山正如 有賀長雄 (斎藤正二編・解説)	〃 1888~90(明治21~23)
◆vol. 1～vol. 10 全10巻		分冊本体価230,000円 ISBN 978-4-8447-5525-8		
2	11	{ 相思戀愛の現象(前編) 国家的社会論	布川孫市 斯波貞吉	1891(明治24) 1892(明治25)
	12	{ 最暗黒之東京 内地雜居可否論纂	乾坤一布衣 紫尾寛太	1893(明治26) 〃
	13	東亜之大勢	末広重恭	〃
	14	{ 神代之女性 藩閥の将来 付 教育之大計	外山正一 〃	1894(明治27) 1899(明治32)
		社会学	洪江 保	1894(明治27)
	15	社会学	辰巳小次郎	1895(明治28)
	16	日本現時之社会問題 附 近世社会主義	田島錦治	1897(明治30)
	17	社会百方面	松原岩五郎	〃
18	哲学大観	建部遯吾	1898(明治31)	
◆vol. 11～vol. 28 全8巻		分冊本体価184,000円 ISBN 978-4-8447-5526-5		

3	19	日本之下層社会	横山源之助	1899(明治32)
	20	内地雜居後之日本	〃	〃
	21	社会的制度一斑	窪田静太郎	〃
	22	社会学	岸本能武太	1900(明治33)
	23	社会研究新論	久松義典(狷堂)	1901(明治34)
	24	社会問題解釈法	安部磯雄	〃
	25	日本の労働運動	片山 潜、西川光二郎	〃
	26	社会学講義(抜粋)	浮田和民	〃
	27	社会外の社会	柳瀬勁介	〃
28	五人組制度	穂積陳重	1902(明治35)	
29	新社会	矢野龍溪	〃	
30	社会学講義	久松義典(狷堂)	〃	
31	都市社会主義	片山 潜	1903(明治36)	
◆vol. 19~vol. 28 全10巻 分冊本体価230,000円 ISBN 978-4-8447-5527-2				
4	25補巻	社会学講義(補巻)	浮田和民	1901(明治34)
	29	社会学及研究法	遠藤隆吉	1903(明治36)
	30	女学生の某	松原岩五郎	〃
	31	自活苦学生	苦学子	〃
	32	理論普通社会学綱領	建部邁吾	1904(明治37)
	33	女子職業案内	落合浪雄	1903(明治36)
	34	普通社会学第一巻 社会学序説	建部邁吾	1904(明治37)
	35	日本社会の発達及思想の変遷	遠藤隆吉	〃
	36	女性観	加藤咄堂	〃
	37	世界に於ける日本の将来	矢野龍溪	1905(明治38)
	38	普通社会学第二巻 社会学	建部邁吾	〃
39	社会学的研究 戦争論	〃	1906(明治39)	
40	海外活動之日本人	横山源之助	〃	
◆vol. 25補巻・vol. 29~vol. 38 全11巻 分冊本体価230,000円 ISBN 978-4-8447-5529-9				

第2期(形成期)全65巻 1907(明治40)年
~1918年(大正7)年(形成期)

配本	巻号	書名	編著者名	刊行年
1	39	日本之社会	小林照朗	1907(明治40)
	40	近世社会学	遠藤隆吉	〃
	41	田園都市	内務省地方局有志	〃
	42	現代青年論	伊藤銀月	〃
	43	田舎之日本	木下義道	〃
	44	静観余録	建部邁吾	〃
	45	婦人職業論	伊賀歌吉	〃
	46	谷中村滅亡史	荒畑寒村	〃
	47	日本の将来	笹川 潔	〃
48	社会主義綱要	堺 利彦	〃	
◆vol. 39~vol. 48 全10巻 分冊本体価230,000円 ISBN 978-4-8447-5529-6				

以降、休止